

通常学級で「困り感」をかかえている児童に対する支援のあり方について（香焼小学校の場合を紹介）

通常学級



標準人数は35名まで。

教科書やカリキュラムにそって、授業を進める。

一斉指導が中心。理解が進まない子に対しては、休み時間を使って指導することもある。

集団で学習することで、友達との関わり方や集団行動・規律などを日常的に学ぶことができる。

特別支援学級



標準人数は8名まで。

名称は「たんぽぽ学級」「なのはな学級」「ひまわり学級」

自分のペースで学習する事で、将来の自立に向けた資質・能力を伸ばす。

「個別の支援計画」に沿った学習計画が組まれ、子供を取り巻く関係機関が連携し合って、将来に渡って継続した支援体制を整える。



通級教室

通常の学級に在籍したままで、普段の学校生活の中で困っている課題について個別に学習を行う。「友達との関わり方」・「集中して課題に取り組むための学習」・「手や体の使い方」などが中心。

週1～2 時間程度、通級教室「たけのこ」に通う。



交流学級

在籍は支援学級となるが、生活科、社会科、理科、図工、音楽、体育、給食、朝の会・帰りの会など、ほとんど通常学級（交流学級）で学習を行う。

※その子の実態に合わせて教科を決める。

自立活動・生活単元学習などの特別支援学級独自の教科があり、一人一人の能力を伸ばすための特別の学習を行う。



人間は一人一人得意不得意があって当たり前です。その考えに基づいて現在の学校教育は構成されています。つまり、「特別支援教育」とは言いますが、決して「特別な教育」ではありません。子供達一人一人に対して、大人になった時の自分の生活を保障してあげるのが子供たちを取り巻く大人の役割と考えられています。

一人一人の子供達が自分に自信をもって生活していけるようにサポートすることを目的に、通常学級だけでは保障できない支援の内容を準備していくのが、通級教室や支援学級の役割です。

香焼小学校では、通級教室に通っていたり支援学級に在籍していたりする友達に対して、何の違和感もなく通常学級の子供達が接する環境があります。安心して学習の機会が選べるととても恵まれた環境だと思います。保護者の皆様にも理解していただけたらと思います。